

令和三年度

小論文

(60分)

流通科学部 流通科学科

解答はすべて解答用紙に記入すること

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開かないこと。
- 二、問題用紙は、表紙を含めて三ページである。
- 三、解答用紙は、二枚である。解答は縦書きにすること。
- 四、受験番号・氏名は、監督者の指示に従って記入すること。
- 五、問題用紙の余白等は適宜使用してよい。

問題

流通科学部 流通科学科

次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

日本の就業者の8割以上が、会社や官庁や教育機関などに勤めている。すなわち、ほとんどの人は集団や組織の中で仕事をしている。ではなぜ、人間は集団で仕事をするのであろうか。

その理由の1つは、1人ではできないことでも集団になればできるということである。奈良の大仏や自由の女神、超高層ビル、巨大タンカーを見れば、それを建設した集団の力を感じずにはいられない。ちなみに、東京スカイツリー建設は総事業費650億円、建設に関わった人の延べ人数は58万人といわれている。このような事業は個人でできるものではなく、集団でこそ可能になるものである。

他者の仕事に触発されて、自らの仕事のパフォーマンス(業績)が^{進捗}進捗することもあるだろう。たとえば、最近、製造現場で増えている一人屋台方式(セル方式)は、作業者の達成感充足のみならず、作業員の相互刺激と全体のパフォーマンス向上をねらって導入されていると考えられる。セル方式とは1人の作業者が複数の作業工程を担当するものである。ある電機メーカーではカラーコピー機(部品点数約1万、工程数3300)を1人で組み立てることができる工員も現れ、そのような人にはスーパーマイスターの称号を与えているということである。

また、にわとりやねずみやゴキブリなどの動物でも、他の個体と一緒にいる場合はパフォーマンスが上昇することがわっている。ある実験では他のゴキブリから観察されているゴキブリは、単純な迷路課題の場合には、餌があるゴールにはやく到達することがわかった。

このようなことを考えれば、^①集団で仕事をするには大きなメリットがあり、当然のことのように思われる。

しかし、^②集団で仕事をするもののデメリットはないのであろうか。個々人は自分の能力や力を集団の中で100%発揮しているのだろうか。この問題に関して初めてくわしく分析したのは20世紀の初頭、フランスの農業技術の教授であったリンゲルマンである。彼が実験したのは、綱引きや荷車を引くこと、回転するひき臼のバーを押すことなどであった。実験の結果、1人の力を100%とした場合、集団作業時の1人当たりの力の量は、2人の場合93%、3人85%、4人77%、5人70%、6人63%、7人56%、8人49%となった。つまり、8人で作業する場合、単独で作業するときにくらべて、半分以下しか力を出していないのである。このような実験を通じて、リンゲルマンは集団作業時には1人当たりのパフォーマンスが低下することを明らかにしたのである。

このように、個人が単独で作業を行った場合にくらべて、集団で作業を行う場合のほうが1人当たりの努力の量(動機付け)が低下する現象を社会的手抜きという。

それではなぜ、集団の中では努力の量が低下するのであろうか。いくつかの理由が考えられるが、1つは集団の中では責任感が希薄になり一生懸命さが失われるからである。神輿を10人でかつぐ場合、一生懸命支えているのは2人、かついでいるふりをしているのが6人、ぶら下がっているのが2人といわれたりする。このような現象はさまざまな状況で出現する。綱引きのような力仕事だけでなく、ブレイン・ストーミングのような頭脳労働でも、社会的手抜きが確認できる。さらに社会のあちこちを見れば、投票率の低下、不正な生活保護費受給の増大、年金保険料の不払い、授業中の私語、国会での議員の居眠り、相撲の八百長など枚挙に暇がないほどである。

(中略)

このように、社会的手抜きは人間のさまざまな社会的行動についてまわる現象である。^③われわれは、日々、社会的手抜きをしているといっても過言ではない。もしそうであるなら、全体に大きな損害をもたらしている可能性がある。それを避ける方法があるのだろうか。

その有力な方法は、手抜きをしないように個人を監視することである。近年、しばしば導入されている成果主義や業績主義がそれである。個々人の挙げた成果や業績を把握して、それに応じた処遇をすることで手抜きを防ぐというものである。いわば「信賞必罰」である。これにもさまざまな工夫がなされてはいる。たとえば集団単位の評価をするとか、結果ではなくプロセスを重視するとか、とくに上層部の成果主義を徹底するとかである。しかしこのようなことをすれば、ほんとうに手抜きを防ぎ、長期的なパフォーマンスの向上が図れるのだろうか。

(釘原直樹著『人はなぜ集団になると怠けるのか「社会的手抜き」の心理学』より抜粋)

(注) 昂進 — 高ぶって進むこと。

問一 以下の二つのことからについて、それぞれ文中に書かれている語句を用いて示しなさい。

一 — ①について、集団で仕事をすることのメリットを文中に書かれている語句を用いて60字～80字で説明しなさい。

二 — ②について、集団で仕事をするもののデメリットとその原因を文中に書かれている語句を用いて60字～80字で説明しなさい。

問二 — ③について、あなた自身が経験したことや見聞きした社会的手抜きの具体例をとりあげ、自分なりにその原因を考えて300字～400字で説明しなさい。